

に向つては、二氏の大膽勇敢なる遠行は、兎角引き込思案勝ちなる我國一汎の女流を刺戟して、大に進取の氣象を煥發するは勿論、日々機械の如くに同一事を繰り返すの外、安を求め逸に流れ、眼光豆の如く徒らに、豆粒大の場面にのみ躊躇することを知つて、他に活動の舞臺の無限に開けつゝあるを知らない、言はゞ萎靡沈滞せる我國一汎の教育界を醒覺するには、大に功があることと思ふ。

然しながら、成敗もと天に在りて、必らずしも功を一時に期することは出来ない。殊に、氣候炎熱風土甚だ健康に適せざることゝあらうし、且つは種々なる人事上の關係の紛糾解さ難きものゝあらう。成効に急ならんとして反つて敗を見るは、珍らしくない、二氏たるもの幸に自重自愛、徐ろに成効の計を劃せられんことを望むのである。

去月二十三日、吾人が東京灣頭、別離の涙を以て遙に南海に航する二氏を送る時に當り、暹羅灣頭、メナム河に近き磐谷府の一部には、遙に希望の眼を上げて、北方の空を眺めつゝ、二氏の一行を待たれて居るのであらう。

安井哲子の君を送る

松村 ひさ

時將に新春二月二十三日、東の空いまだ白まず、星は鼠色の雲の中に眞珠貝をちりばめたらんやうにきらめき渡れり。全都の家眠り未ださめず、行きかふ人もなき中に、小石川なる砲兵工廠の夜業の物

音のみすまじくとゆるけるをきゝて、時節柄一種の感にうたれつ。安井哲子女史の今回の行は平和の出陣なりと或人の書かれし事に思ひ合せて、今其君を新橋に送らんといそぐわれは、更に新しく君の壯圖を思ひ前途を思ひ志して行かるゝ暹羅を想像し、かにかくとかの君を中心としたる思ひと感想に満たされぬ。をりしも車四五臺走り來る音後よりきこゆ。もしやとふりかへりすれちがふ一殺那、薄暗き光にすかせば、三臺目のそれはまことや我送らんとする其君なりけり。肌をつんざくばかりの寒風の中を凜として行かるゝ後姿のをゝしさ！いそぎ見送りたるわれはまたもや言ひしらぬ感に打たれぬ。希望の星の無數にかがやける朝の空を、此故國に幾年かの別れを告げ樂しき家庭を後にして出で立たるゝ君の心、今しも新橋にと向はるゝ此今の車上の君の心はいかに、前途に壯大なる企圖と抱負をもちて、万里の波濤を破らんとする其首途にある君の今の心ははたいかに、かくて幾多の困難にも堪へて其重大なる任務を盡さるべき強固なる意志と明晰なる頭腦を有し、しかも今は無量の感情に満たされたらん君は、多くの人々に送られて、河野清子の君中島富子の君と共にめでたく出立せられぬ。瀛車は三君の行の壯なるがごとくいさましく動き出して走せされり。

明治二十三年女子高等師範學校を卒業し、直に其附屬小學校に教鞭を執り、出で、盛岡の師範學校に奉職し、再び母校附屬小學校に歸り、明治三十年官命を受けて英國に留學し、三十三年歸朝、爾來女子高等師範學校教授として、孜孜として其任務に盡されし君、我日本帝國の女子教育の爲に終始盡瘁

せられし君は、今や暹羅國の招聘に應じ、其皇后陛下の設立にかゝる華族女學校の主任者として、彼國の女子教育の爲に、幾多の抱負を有ちて渡航せられぬ。君は實に女子教育の人なり。敬慕すべき女子教育の献身者なり。

かゝる君をはるゝ迎へ得たる彼國の幸福は言はでもしるし、思ふに其女子教育に將來大に見るべきものあるべきなり。等しく東洋に國する人が、國をかへて女子教育の爲に盡さるゝ事真に東洋の爲に賀すべきなり。

風土異なる地に今よりのち幾年を送らるべき君よ。幸に國家の爲に女子教育の爲に自愛せられよ。健全なる身体を以て其企圖を實行せられ、彼國の感謝に送られて、此故國に歸りたまはん日も、われはけさの如く、否今朝の心に成効祝賀の喜を加へてうれしくも君を迎へまゐらせん。

同窓の一人として、其厚誼を辱したるわれは、君の新橋に於けるさよならの聲、途上に見たる車上の君の後姿を忘るゝ能はず、即ち一月二十三日の朝、母校の一室に之を記してさらに君を送る。

懇話會につきて

ふ み 子

方々の學校や幼稚園では家庭との連絡をはかる爲に懇話會といふことの設けがわりまして、時々、家庭の父母なり、兄弟なりを招いて、子供の學んで居る様子、遊んで居る有様を御目にかれたり、ま